

平成29年度 前期 学校評価（学校関係者評価）結果

項目	●色 教師 アンケート項目 ●色 生徒 アンケート項目 ●色 保護者 アンケート項目		■ そう思う ■ ややそう思う ■ ややそう思わない ■ そう思わない		肯定否定割合		総合評価	
	番号	具体的な評価内容	自己評価割合 (%)		肯定 %	否定 %		
I 教育目標について	①	学校経営方針に基づき、教育活動を行っている。			100	0	A	
	②	若草中学校は、常にP→D→C→Aサイクルに基づいた教育活動にとりこんでいる。			94	6	B	
	③	目指す生徒像	「よく学び、工夫する生徒」を育成している。			100	0	B
	④		「心豊かで、助け合う生徒」を育成している。			100	0	A
	⑤		「健康で、たくましい生徒」を育成している。			100	0	A
	⑥		「意欲を持ち、やり抜く生徒」を育成している。			100	0	B
	考察	学校の教育目標は総花的であるため、具体的な取り組みとの関連がつかみづらいことは事実である。しかし、先生方の取り組みは生徒の姿に収斂するため、今現在の生徒を見れば学校全体として教育目標に向かっていることは明らかである。このような学校の高まりは、生徒自身が感じているだけでなく、保護者・地域も感じている。例えば地域社会でも「あいさつ」ができることは、まず校内の高まりがあり、それが地域に広がったよき例である。同様に、例えば先生方のラジオ体操への参加も、生徒と学校と地域社会との信頼関係を築くための大切な一歩である。						
改善	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事、授業内容の内容検討と工夫改善を行う。（★教務主任が改善案の提案をし、運営委員会で検討する） ・教職員自己評価アンケート評価、グラウンドデザインの内容検討と工夫改善を行う。（★教頭が改善案の検討をし、運営委員会で検討する） 							
学校関係者見評	<ul style="list-style-type: none"> ・より良き生徒の育成のためには、家庭、学校、地域がそれぞれ孤立することなく、相互に緊密に連携をとり、現状に満足せず、引き続き努力することが大切であると思います。 ・9月16日の学園祭で、1年生の合唱を見せていただきました。あの小学生が、立派に中学生に変化・成長している姿に感動しました。生徒育成に対する先生方の努力が実感できました。 ・生徒と学校、地域社会との信頼関係がさらに深めていけるよう、今後も継続した取り組みをお願いします。 ・生徒を引っ張っていける先生であるよう期待しています。 							
II 校務分掌について	①	職務内容を十分理解し、責任を持って仕事にあたっている。			97	3	A	
	②	自分の分掌と他の人の分掌との関連を考え、相互に連絡・協調している。			97	3	A	
	③	分掌の達成状況、改善点などを管理職に「報告、連絡、相談、確認」している。			97	3	B	
	④	管理場所の安全点検を行い、常に適切な安全管理に努めている。			100	0	A	
	⑤	職員会議や校内研究会に積極的に参加し、決定事項を実践している。			97	3	A	
	考察	総合評価はおおむね良好であるが、自由意見にもあるように若干課題含みである。特にここで大切なことは全員のベクトルを揃えることである。力の分散や意識の離散は、組織としてだけでなく、一人一人の向上にマイナスに働く。もちろん我々も人であり、完全無欠は有り得ない。だからこそこのような振り返りが必要であり、よりよい方向に向けての足掛かりとしたい。また、それぞれの項目について意識してほしいことは、「行うことは当たり前」の内容だということである。常にそして継続的に行うことが求められており、これが崩れると組織の足並みが崩れ、職員関係に悪影響が及ぶ。もちろん生徒や保護者、地域との信頼関係にも影響が及ぶことは言うまでもない。						
	改善	<ul style="list-style-type: none"> ・管理職、教務主任、生徒指導主事、学年主任間の情報交換のさらなる意識化をする。（★運営委員会のリーダーシップを発揮する） ・上記メンバーによる風通しの良い職場づくりのさらなる推進を行う。（★特に教頭、主幹教諭が意識する） 						
学校関係者見評委	<ul style="list-style-type: none"> ・職員が弧に陥らないためには、職員相互の情報交換はとても重要なことであると思います。その心構えとしては「ワンフォアオール・オールフォアワン」の想いを持って取り組んでください。 ・事故が発生しないことは、先生方の日頃の安全対策の成果と感謝します。一方、「無事故」は、安全意識のマナー化になり、老朽不備の設備リスクを見逃す危険があります。一般企業では、安全目標は「災害ゼロ」ではなく「リスクゼロ」です。「危険予知訓練（KYT）」など実施し、リスク情報の明確化・共有化を高めていくことが望まれます。 ・考察にある通り、職場の環境づくりはすべてにつながると思います。教職員のチームワークの向上により、学校全体の環境が良くなりますよう、期待しています。 							
III 授業について	①	基礎・基本の定着を図る授業を行っている。			100	0	A	
	生11	先生方は、わかりやすい授業をしていると思いますか。			92	8	A	
	保11	先生方は、わかりやすい授業に努めていると思いますか。			82	18	B	
	考察	わかりやすい授業とはどのような授業をいうのであろうか？アンケートにおいて教師の評価が高く、生徒・保護者の評価がやや低いのは、まだ教師が自分の目線で「わかりやすい」をとらえているということであろうか。この授業時間を何をするのか＝めあての提示、めあてが達成できたか＝振り返り、という山梨スタンダードの取り組みと、学び合いによって、生徒が「わかる、わかった」と思える十分な課題と時間を与えているか、もう一度振り返る必要がある。						
	改善	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研を有効活用し、理論を学び、実践を積み重ねる。また山梨スタンダードを全職員で徹底する。（★研究主任のリーダーシップをとり、スーパーバイザーの招聘を積極的に行う） ・研究授業におけるスーパーバイザーや指導主事の助言をもとに、平素の授業での改善に取り組む。（★校長、教頭の授業観察における指導を中心に行う） 						
②	生徒の思考力・判断力・表現力、学習意欲を向上させる教科指導のあり方や教育内容の工夫改善に努めている。			100	0	B		
生13	先生方は、授業に意欲的に取り組めるように教材や教具を工夫して授業を行っていると思いますか。			92	8	A		

Ⅲ 学習指導・進路指導について

保13	先生方は、お子さんが意欲を持って取り組めるような、授業の工夫をしていますか。	27	55	14	4	82	18	B
考察	教師の意識は素晴らしい。この意識の高さがさらなる授業改善につながることは言うまでもない。しかし、生徒の1割(約40人)・保護者の2割(約80人)は否定的に考えていることを真摯に受け止めなければならない。すべての生徒に学ぶ喜びを味わわせるためには、さらなる授業改善が必要であることは言うまでもない。この授業改善は、言うは易し行は難しで、とくに経験年数が多い教師ほど、これまで築き上げてきた授業スタイルを変えることに抵抗感がある。実は、この「現状を変更することが苦手」が教師の弱点であるという指摘も一般論として多い。ぜひとも乗り越えたい課題である。							
改善	<ul style="list-style-type: none"> 「学び合い」授業の実践の継続と小中連携した校内研へと発展させる。(★研究主任のリーダーシップのもと全教諭が積極的に公開研究会へ参加する) 学校開放日のさらなる周知を通信・HP等で充実させる。(★教頭及び情報教育主任が役割分担を徹底する) 							
③	研究主題を意識した「学び合い」のある授業を実践している。	42	55	3		97	3	B
生12	先生方は、一人一人の考えを大切にしたい、学び合いのある授業を進めたいと思いませんか。	62	28	10	1	89	11	A
保12	先生方は、一人一人の考えを大切にしたい、学び合いのある授業を進めたいと思いませんか。	30	52	15	4	81	19	B
考察	「学び合い」は小学校でも校内研究で取り組んでいる。そのため、中学校の学び合いの授業にも生徒は非常にスムーズに対応している。このことは小中連携という意味でも大変素晴らしいことである。しかし残念ながら我々教師の「学び合い」に対する取り組みに差があることも事実である。これは年度末の人事異動において年齢層に変化が起き、若い教師が増えたこと、つまり「学び合い」授業の経験の浅い職員が増えたこともその一因である。我々教師は授業のプロフェッショナルとして、一人一人が授業改善に取り組み、校内研を有効活用してさらに理論と実践を積み重ね、「学び合い」の本質に迫るべく研究を深めていかなければならない。この取り組み継続が生徒の姿を変え、それが保護者に伝わることで評価の改善を図りたい。							
改善	<ul style="list-style-type: none"> 校内研を有効活用し、理論を学び、実践を積み重ねる。(★研究主任のリーダーシップのもと、全職員が授業改善に取り組む) 研究授業におけるスーパーバイザーや指導主事の助言をもとに、平素の授業での改善に取り組む。(★校長、教頭の授業観察における指導を中心に行う) 							
④	少人数グループや習熟度別授業の実施、また、発展的な内容を取り入れるなど、個に応じた指導を行っている。	42	55	3		97	3	B
生13	先生方は、授業に意欲的に取り組めるように教材や教具を工夫して授業を行っていると思いませんか。	65	27	7	1	92	8	A
保13	先生方は、お子さんが意欲を持って取り組めるような、授業の工夫をしていますか。	27	55	14	4	82	18	B
考察	教師評価において積極的な肯定がなく、改善の余地のある項目である。「学び合い」の授業では、より高いレベルにチャレンジするための「ジャンプ課題」の設定が必要不可欠であるが、このジャンプ課題はその内容や難易度設定等が非常に難しく、これが教師にとって「学び合い」授業を日常的に実施する大きな壁となっている。しかし、このジャンプ課題の追研こそが、生徒にとっても「学び合い」のさらなる発展・向上につながる大切なポイントであり、学力向上の有効な手立ての一つでもあるため、今後とも継続した取り組みが必要である。							
改善	・日常の授業で「ジャンプ課題」の設定を継続して行う。(★各教科担当が平素の授業で取り入れる)							
⑤	指導と評価の一体化を心がけ、生徒の意欲や自信につながる評価を行っている。	39	61			100	0	B
生14	先生方は、いろいろな場面で、あなたが努力したことを認めてくれますか。	56	34	8	2	90	10	A
保14	先生方は、お子さんの努力したことを認めてくれて、さまざまな面から評価していると思いませんか。	34	50	12	4	84	16	B
考察	<p>全体的な肯定評価は高いものの、積極的な評価(A評価)は少なく、また否定的な評価を持つ生徒が1割・保護者が2割近くいることを考えると、これも改善が必要な項目である。この指導と評価の一体化は、指導の状況を評価し、それをまた指導に生かすといったPDCAサイクルが重要であり、日常的な授業で常に行われるべきものである。教師は常に自分の授業を振り返り、改善を行わなければならない。もちろんすべての教師がさまざまな研修に参加し、授業改善のために日々努力を続けている。この努力が生徒に認められ、それが引いては保護者に認められるよう、今後とも努力していきたい。</p> <p>また、生徒のみならず大人もすべてそうであるように、人はみな承認欲求を持っている。自分の努力や取り組みが認められると、それが意欲につながり、さらに高い目標に邁進できる。このように評価とは人を伸ばすものである。ぜひ「褒めて伸ばす」指導を今後とも全職員で継続していきたい。また学校全体として良いことはオープンに認め合う風風を醸成したい。</p>							
改善	・様々な場面や方法(学活、集会や口頭、通信等)で褒める、励ます、認める評価を励行する。(★全職員が意識する)							
⑥	生徒が自らの生き方について考え、正しい職業観を身に付けることができるように進路指導を行っている。	29	55	13	3	84	16	B
考察	進路指導は、生き方の指導であり、職業観の指導であり、しっかりと将来を見据える指導である。故に、各教科・道徳・総合・特別活動において、計画的に全学年で行われるべきものである。若草中学校においても、全体計画に基づき、各学年の発達段階に応じた取り組みを行っている。卒業に向けて適切な進路選択が行われるよう、今後とも現状の活動をPDCAサイクルを行いながら工夫改善し、より良い進路指導のための努力を続けていきたい。							
改善	・各学年での取り組みを基盤として、PDCAサイクルで工夫改善を行っていく。(★学年主任のリーダーシップのもと、各学年で共通理解のもとに実施する)							
学校関係者意見評価委員会	<ul style="list-style-type: none"> 学び合いにおける「ジャンプ課題」については、継続した積み重ねが大切だと思います。今後もさらに研究を積み重ねてください。 教師、生徒、保護者のアンケートが実施され、客観的に現状把握ができる中での指導は、さらに上を目指すことを要求され、大変な事と思う。アンケート実施と教師の向上心に感謝していますし、素晴らしい教育環境にあると思います。 認め合うことにより、自己肯定感が高まると思います。そして、それが必ず将来につながっていくと思います。 誰でも褒められることはうれしいことです。先生方は大変お忙しい中、工夫をして頑張っている姿勢は保護者に良く伝わってきます。私は平等に指導していると思っていますが、保護者の中にはそう思っていない方もいると聞きます。残念なことです。 昔と違い、子ども自身が夢や希望をあまり持っていない様な気がする。その中で行われる進路指導は、大変難しいことだろう。しかし子ども一人一人と向き合って努力し頑張してほしい。 							
①	生徒理解のために生徒とのコミュニケーションを図る努力をしている。	71	29			100	0	A

IV 生徒指導・道徳指導について

生15	先生方は、生徒の意見をよく聞き、相談に乗ってくれていると思いますか。		62	27	9	2	89	11	A
保15	先生方は、相談や悩み事について、適切に応じてくれていると思いますか。		33	48	13	5	82	18	B
生16	学級担任の先生には、気軽になんでも相談できますか。		54	29	13	4	83	17	A
保16	お子さんは、担任の先生になんでも相談していますか。		20	38	24	18	58	42	C
考察	<p>先生方が、生徒のために親身になって対応している様子は、平日頃の言動から十分に伝わってくる。改善している生徒や救われている生徒も多く、本当に頭の下がる思いである。ぜひ今後とも一人一人を大切にしたい対応を続けてほしい。</p> <p>一方、生徒や保護者の中に、対応が不十分であるという意見があることは我々は真摯に受け止めなければならない。すべての生徒・保護者が納得する対応を目指して、日々研鑽し、協力し合い支え合い、チーム若草として成長していきたい。また、多くの生徒の気持ちに耳を傾けるということが、逆に問題がこじれたり逆効果になったりすることもある。このような場合にこそ、チーム若草として互いに支え合い励まし合いながら事の解決を図りたい。</p> <p>生徒・保護者の問16については、普段の先生方が親身になって生徒に対応している様子が現れている。生徒評価がAであることはとても素晴らしい評価だと思う。一方保護者評価が低いのは、このような生徒の姿が十分に保護者に伝わっていないことが考えられる。親子の会話の減少が本校の課題でもあるが、このようなところからも推察できる。</p>								
改善	<ul style="list-style-type: none"> ・今後とも、一人一人の生徒を大切にしたい対応を続けていく。（★情報交換の意識を全職が持ち続ける） ・一人で解決困難な課題に直面した場合には、チームとして対応できるよう組織を強固にする。（★学年主任、生徒指導主事、養護教諭、SC等関係職員間の情報交換をこれまで同様でいねいに行う） 								
②	基本的な生活習慣、生活のルールや決まりを身につけさせる指導を行っている。		68	29			97	3	A
生8	あなたは、一日の生活のリズム（起床・就寝・食事・排泄など）がつくれていますか。		57	31	11	2	87	13	A
保8	お子さんは、一日の生活のリズム（起床・就寝・食事・排泄など）がつくれていますか。		45	36	15	4	81	19	B
考察	<p>学校も一つの社会であるから、一人の人間としての約束、集団としてのルール、あるいは上下関係のマナー等、様々な成文律・不文律、そして常識や慣習が存在する。これらを身につけることは、人として生きる上で非常に大切なことである。もしも生徒にしっかりと身につけていなければ、教師として指導することは当然の使命である。この項目について教師及び生徒の肯定評価が非常に高く、先生方が普段から丁寧に指導していること、生徒もそれを受け止めていることが伝わってくる。</p> <p>また、このような基本的な生活習慣は、家庭や地域でも育まれるものである。その意味では「一日の生活のリズムづくり」に家庭でも取り組むよう、事あるごとに話題にすることが必要とも言えよう。</p>								
改善	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭や地域の理解と協力を得ながら、これまでと同様に基本的な生活習慣の育成等の大切な指導を継続していく。（★生徒指導主事のリーダーシップのもと、スピード感のある対応を行う） 								
③	一人一人のよさを認め合う態度、望ましい人間関係を育てる指導を行っている。		45	55			100	0	B
④	生徒支援委員会（生徒指導部会、ケース会議含む）は、組織的・計画的に運営され、有機的に機能している。		45	48	6		94	6	B
考察	<p>インクルーシブな社会の実現のためには、学校教育の果たす役割は大きい。とりわけクラスや学年といった同年齢集団の中、あるいは部活動や委員会活動といった異年齢集団の中で、個性を認め合う気風を育てることは、今後社会に出たときにより一層必要で大切な資質を育てることになると言えよう。今後とも継続した指導を行い、「誰もが違う」ことを心から理解する生徒を育成していきたい。</p> <p>そのために必要な情報交換の場が「生徒支援委員会」であり、ここでの情報交換がより良い生徒指導に結びついていることは言うまでもない。一人一人が得られた情報が生徒にフィードバックされるように、今後とも組織的・計画的な運営を継続していきたい。</p>								
改善	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒支援委員会の情報を、多くの教師間で共有するための場を設定する。（★教務主任のリーダーシップのもと、定期的な情報交換の場を設定する） 								
⑤	道徳の授業を年間計画に沿って実践し、道徳実践力を高めるための指導を授業以外でも日常的に取り組んでいる。		19	58	19	3	77	23	C
生17	学校は、道徳教育（人間の生き方やあり方）を行い、心を育てる教育をしていると思いますか。		62	29	7	2	91	9	A
保17	学校は、道徳教育（人間の生き方やあり方）を行い、心を育てる教育をしていると思いますか。		27	59	10	4	86	14	B
考察	<p>中学校では、2019年度から道徳が「特別な教科 道徳」となる。学校全体で行う道徳教育と、教科としての道徳との関連について、今後示されるであろう学習指導要領を読み解いて、若草中学校独自の教育課程を実施しなくてはならない。もちろん教科であるから評価が必要であるが、この評価は道徳の時間だけでは完結しない。すべての教育活動を道徳的な視点で見ると教師には必要となる。ともあれ、直前になって戸惑うことの無いように、少しずつ研究をはじめていきたい。</p> <p>現状の道徳の授業は、残念ながら他の教科等に代わることもある。行事等の関係で止むを得ない場合もあることは重々承知しているが、道徳の授業が軽く扱われているという印象を保護者に持たれていることもまた事実である。もちろん道徳教育は1時間の道徳の授業だけで行われるものではなく、日常生活上のあらゆる場面で行われるものであり、そのような道徳教育への取り組みを先生方が一生懸命行っていることは、平素の様子や生徒評価から容易に知ることが出来る。このことについては、若草中学校の基盤づくりのために役に立ち、またより良い学校作りを支えていることは言うまでもない。</p>								
改善	<ul style="list-style-type: none"> ・「私たちの道徳」を授業の中で活用する。（★道徳主任のリーダーシップにより各担任の意識の向上を図る） ・各学年ごとに道徳授業の時間を確保し、その内容について情報交換や資料の共同制作を行う。（★学年主任のリーダーシップ） 								
⑥	不登校やいじめについて、積極的な情報収集を行い、早期発見・早期対応を意識して取り組んでいる。		61	35			97	3	A
考察	<p>不登校やいじめは学校が解決しなくてはならない喫緊の課題である。不登校については、小学校から引き続いているケースが非常に多く、そのため小中連携（情報交換）や外部機関（SC、SSW、支援学校等）との連携も頻繁に行われていて、教職員の意識もとても高い。いじめについては、早期発見・早期対応を行うための各種アンケートや、教職員の情報収集と情報交換も頻繁に行われており、これも同様に意識が高い。現在学校ではスピード感のある取り組みや対応を行っており、不登校の減少・いじめの撲滅のために全職員が一丸となっている。</p>								
改善	<ul style="list-style-type: none"> ・新たな不登校やいじめを生まないための取り組みを、今後も継続していく。（★生徒指導主事、不登校担当のリーダーシップ） 								
学校関	<ul style="list-style-type: none"> ・保16のアンケート結果については、わが子に対する親心と同時に、先生に対する期待の大きさの裏返しでもあります。今後も粘り強い取り組みが必要だと感じます。（特効薬はありません） ・道徳教育には、学校の教育だけでなく、家庭や地域がやる道徳教育もあります。相互協力体制を作るために、自治会宛てに年に1 								

	係者 見 評 価 委 員 会 意	<p>～2回「学校の道徳教育の現状と地域や家庭に望むこと」と題した学校通信を、組長会議資料として発行していただくとありがたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スピード感を持って、常にアンテナを高くし、丁寧な対応を、また相談しやすい環境をつくっていただきたいと思います。 ・勉強しなさいと言ってもしないこともある。学校においてと言っても来られないこともある。その子どもに先生がずっとついていけることはできないこともある。非常に学校は対応が大変だと思う。いじめや不登校は親にとっても難しい。どのように対応したらよいかは、一人一人の個性によっても異なるし、それまでの親との関係性によっても異なる。 ・不登校やいじめの対応は、とにかく情報交換が大切だと思います。 ・生徒指導や道徳は、生徒の社会性を高めるために日常的に行うべきものだと思います。したがって日々粘り強く取り組んでいただきたいと思います。 							
V 特別活動について	①	生徒の自主性を育成し、学級や学年、学校生活の充実を図るための指導を行っている。	45	55	100	0	B		
	②	さまざまな行事や活動を仕組み、達成感や成就感が満たされる内容を工夫している。	52	45	97	3	A		
	生18	学校の行事や生徒会の行事など、学校の行事は充実していると思いますか。	69	24	61	93	7	A	
	保18	子供たちが活動する学校の行事は充実していると思いますか。	40	51	62	91	9	B	
	考察	学校の特別活動の充実について、生徒の評価が高いことは大変素晴らしいことである。いかに行事を多く仕組みでも「やらされている感」が強いと、生徒の満足感が高くならない。自主的な活動を仕組みながら、レベルの高い目標に向けて努力させる教師の取り組みがあるからこそ、満足感や充実感が高くなるのである。教師も高く、今後も教師自身が満足感や充実感を感じる取り組みとなるよう自己研鑽を続けていきたい。また、取り組みの過程や結果を保護者に伝えられるよう、各種たよりの発行やHPの更新も重ねて行いたい。							
	改善	<ul style="list-style-type: none"> ・特別活動の意義を全職員で共通確認し、その上で取り組みを具現化していく。（★各行事ごとにPDCAサイクルにて検証と改善を行う） ・学校での活動の様子が保護者に伝わるよう各種たより、HPの充実に取り組み。（★各種たよりの発行者、HPの更新担当が積極的に改善を行う） 							
	③	朝読書や図書館の活用を積極的に進め、豊かな感性の育成を図っている。	52	48	100	0	B		
	④	充実した委員会活動や部活動を行うことができるような指導に努めている。	45	52	97	3	A		
	考察	3年前から取り組んでいる朝読書は、豊かな感性の育成のために有効に機能していると言えるだろう。一日の始まりが静かで落ち着いた雰囲気からスタートすることは、授業への集中力の高まりや穏やかな生活につながる事が期待できる。今後とも継続したい取り組みである。これまでも生徒と一緒に本を読む教師の姿は見られたが、残念ながら全体に徹底していない。「朝読」の時間は、生徒と教師と一緒に本を読む時間だととらえて、全職員で読書活動の一層の充実を図りたい。							
	改善	<ul style="list-style-type: none"> ・朝読書の時間を生徒も教師も全員が本を読む時間にする。（★各担任が実施し、順次全職員へと広げていく） ・読書内容の工夫と改善を、委員会の活動内容とからめて検討する。（★図書委員会担当が検討し提案する） 							
学校 関係 者 見 評 価	<ul style="list-style-type: none"> ・これからも生徒が誇りを持てるような校風を作ってください。 ・職員の皆様の日々のきめ細かな努力に感謝します。明るく・楽しく・元氣な活動にしてください。 ・朝読書は、全校一斉に、全職員で是非取り組んでいただきたいです。 ・私の時代も、朝読書と目の体操を毎朝授業前に実施した。そのためかメガネをかけた生徒は少なかった。読書をすることは、文章の理解や読解力の向上に役立つので大切だと思う。 ・保護者として学校を見たとき、学校の行事はとても充実していると思います。 ・学園祭を見ると、子どもたちが頑張っている姿がとても素敵でした。 								
VI 家庭・地域との連携について	①	地域や保護者からの情報や要望を真摯に受けとめ、日々の教育活動に反映できるように努めている。	52	48	100	0	A		
	②	さまざまな学習活動で、地域の施設を利用したり、地域の人々に協力を要請するなど、地域連携を深めている。	23	52	23	97	3	B	
	考察	若草地区は新興住宅地域であり、古くからこの地域に住む住民と、他地域から転入してきた住民とが混在している。そのため地域基盤を大切に考える一方、相反する考え方を含めた様々な考え方や価値観も存在する。このことから地域や保護者からの情報は、その内容や種類は多岐に渡る。教師はそのさまざまな情報について、ひとつひとつ受け止めて、若草中教育の向上のために取り組んでおり、その姿には頭が下がる思いである。 一方地域連携はまだ弱いと言わざるを得ない。しかし本校の地域連携は、新興住宅地ゆえの地域基盤の脆弱性が壁となることもあり、また学校規模による適性もあり、一筋縄ではいかないのが現状である。現在行われている活動の見直しを含めて、今後の検討課題である。							
	改善	・地域連携の在り方について、これまでの活動の総括を適切に行い、地域連携を視野に入れた行事の再検討を行う。（★教務主任、生徒会顧問による活動の総括と来年度の取り組みの方向性を検討する）							
	③	学校・学年・学級たより等の諸たよりを定期的に発行し、またホームページを活用して、学校や生徒の様子を積極的に公開している。	52	35	10	3	88	12	A
	生19	学校は、いろんなたよりやホームページなどで、出来事を積極的に連絡し、また公開していると思いますか。	62	25	10	4	87	13	A
	保19	学校は、各種たよりやホームページなどで、積極的に情報公開を行っていると思いますか。	38	51	8	3	89	11	B
	考察	各クラス、各学年、各担当で、適切な時期に時を逃さない内容で諸たよりを発行していただき大変ありがたいことである。生徒を通してだけでは伝わりきれない多くの情報が、適切な形で保護者に伝わることは、お互いの信頼関係を高めるうえで効果的に働き、開かれた学校づくりに大きく役立っている。その先生方の努力が実り、これまで大きく落ち込んでいた評価も、生徒や保護者に一定の評価がなされるようになってきている。高度な情報化社会にあっては、デジタル情報も学校と家庭や地域社会をつなぐ重要な役割を占めるため、今後もスピード感のあるたよりの発行とホームページ運営をしていきたい。							
	改善	<ul style="list-style-type: none"> ・各種たよりの継続的発行と内容の工夫改善を行う。（★各たよりの発行者による自己研鑽） ・ホームページさらなる更新を行う。（★情報教育主任が声掛けをし、担当が積極的に更新していく） 							
	学校 関係 者 見 評 価	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が健全に成長できるように、学校と地域が互いに連携を取って、子どもたちをサポートしていきましょう。 ・若草南小とは、地区民会議や防災に関する三役・防災リーダー会議があり、毎月の組長会議に学校通信が提供されています。年に一度、学校関係者と組長会議等で意見交換の場として、先生方の日々の努力を理解してもらおう場があっても良いかも。 ・たよりやホームページは、苦手な教師もいると思いますが、積極的に公開していただきたいと思います。 ・ホームページを見る方は少ないような気がする。保護者間の話にもあまり出てこない。しかし学校メールは必ず見るので、何かしらメールの活用を考えてみたらどうか。 ・今後とも継続的な努力を続けるようお願いいたします。 							

Ⅶ自身と職場について	①	学校へ来ることが楽しかった。	32	58	10	91	9	B
	生1	あなたは、毎日元気に楽しく学校に登校していますか。	72	21	51	94	6	A
	保1	お子さんは、毎日元気に学校に通っていますか。	71	26	21	96	4	A
	考察	<p>学校へ来ることを楽しみを見出している生徒が多く、これはとりもなおさず先生方の努力の成果である。生徒が楽しいと感じ、その様子が保護者に伝わるので、保護者評価も高い。生徒・保護者に比較すると先生方の評価が低いことが気になる。先生方が明るく笑顔で勤務することが、さらなる生徒の楽しさにつながるため、明るく楽しい職場になるよう一人一人が心掛けていきたい。</p> <p>もちろん教師は忙しい。日々次から次へと新たな課題が表出し、土日祭日関係なく活動もある。苦しさ楽しさを比較すると、おそらく苦しさの方が多いかもかもしれない。しかし、その苦しさの中にも自分だけにしかわからない達成感があったり、ほんの一瞬の生徒の笑顔に心洗われたい、というような小さなやりがいがあったりもする。そこに楽しさや心のよりどころを持てると、教師も悪くないなあと感じるだろう。多忙化の解消は物理的な仕事量の削減などの方法でしかできないが、多忙化の解消は、精神的な満足感によるものが大きい。みなで語り合い、達成感満足感を共有できる職場や仲間にしていきたい。</p> <p>一方、楽しくないと感じている生徒が6%いる。つまり全校では約26人である。大切なのは、多くの笑顔の陰に隠れているこのような生徒への対応である。教師はアンテナを高くし、広く情報を集め、個に応じた対応を心掛けたい。</p>						
	改善	<p>・教師の笑顔が生徒の笑顔につながるため、教師がやりがいをもつよう心掛ける。（★全職員の努力目標とする）</p> <p>・様々な行事の中で、生徒の普段とは異なる姿が明らかになりやすい。2学期は行事が多いため、ここでの生徒の様子をしっかりとつかみ、個に応じた対応を徹底する。特に褒める・認める評価を行う。（★各担任の情報収集と学年集団で協働作業を行う）</p>						
	②	授業や生徒のことなど、必要な時に職場で話ができた。	48	45	6	94	6	B
	③	子供たちに信頼される教師であった。	16	68	16	84	16	B
	④	教師としての力量を高めることができた。	35	55	10	91	9	B
	⑤	教師集団として、一つにまとまることができた。	29	55	13	85	15	B
	考察	<p>教科担任制をとる中学校では、例えば教科が異なれば授業について隣席の先生と語ることは少ない。同教科の先生と語るにも、空き時間が合うことは少なく、ましてや放課後も部活動があり、やっと時間が空くのは夜の帳が下りる頃である。しかし、このような繁忙の中にあっても、時間をやりくりしながら情報交換し、生徒のために労を惜しまず取り組んでいる姿が本校にはある。学校が落ち着きを取り戻し、授業が充実し、あいさつに溢れ、よき方向に向かっていくのは、このような形にならない先生方の努力の賜物である。そして、学校が良くなってきているのは、先生方が信頼を得ているからであり、力量があるからあるいは高まっているからである。「そう思う」と言い切ることが難しい設問であるが、これが謙虚な回答だということは生徒の姿を見れば明らかである。</p>						
改善	<p>・職場の雰囲気や先生方のメンタルヘルスに多大な影響を与えるため、学年の枠・年齢の差等を超えて、互いに語り合い、悩みあい、笑いあう職員集団となるよう、管理職が気配り心配りを励行する。（★校長、教頭、主幹教諭の声掛け心掛け）</p> <p>・良いものを認め合い、レベルの高いものを志向する教師集団であるために、常に研究と研鑽を続ける。（★研究主任、学年主任のリーダーシップ）</p>							
学校関係者評価委員会意見	<p>・「情報の共有化」をめざすため、企業では「メールの活用」が発達している。方針の徹底、問題の共有化と対策や意見交換の場、ホウレンソウの徹底手段として、会議をカバーする有効な手段である。さらに時間の有効活用の効果を出すための計画的メール活用計画があってほしい。</p> <p>・生徒、保護者の回答では「楽しく登校している」が高評価となっており、先生方の努力がこの数字に表れていると思います。</p> <p>・先生の事を信頼する、または好むクラスは、すべてが前向きで雰囲気も良くなると思う。子どもたちに好かれる先生を目指すことで、学校全体はさらに良くなるように思う。</p> <p>・いろいろな家庭があり、いろいろな生徒がいて、先生方はとても大変だと思います。先生方が自分に自信を持って、それぞれ助け合いながら頑張ってください。</p>							
施設設備について	①	学校には、教育活動に必要な施設・設備が整っている	58	32	10	56	44	C
	生②	学校には、学習するのに必要なもの・場所・道具などが整っていると思いますか。	65	27	71	92	8	A
	保②	学校には、教育活動に適した施設・設備が整っていると思いますか。	27	51	16	78	22	C
	考察	<p>学校の老朽化は非常に大きな問題であるが、様々な政治的要素が絡むため、その完全解決は難しい。例えばトイレが少ない、水場が少ないなども何年も課題として取り上げられているが、その解消のためには莫大な予算が必要であり、その改修規模の大きさから早急な対応も難しい。もちろん校舎の新規建造が良いことは誰も理解している。だがそれが現時点で不可能ならば、限られたスペースや施設・設備に手を入れながら、改善改良を探るのが最善の方策と言えよう。</p> <p>一方生徒の施設・設備への満足度が高いことは、他校との比較ができないことが大きな理由であるが、教育活動に対する満足度が高いこともその理由の一つであろう。ここに教育活動は中身が大切であることを教えられる気がする。</p>						
	改善	<p>・必要なものを年次計画で継続して請求していく。（施設・設備については教頭、各種備品については教科主任、その他必要な物品については各担当が責任を持って請求する）</p>						
学校関係者評価委員会意見	<p>・「安全第一」であり、応急措置も含め、学校として声を高くして努力していただきたい。</p> <p>・予算のやりくりが大変かと思いますが、少しずつ改善をしていただければと思います。</p> <p>・十分に整っていると思う。直せるところは直しながら使っていくことも必要。ただし、子どもの命やけがに係ることは最優先に解決してほしい。</p> <p>・授業において、授業内容と関係のない話をするのもあると聞く。このような時間をトイレ休憩にすることで、少ないトイレ数に対応することも可能ではないか。（もちろん本来は授業とすべきだが、少ないトイレ数に対応するための苦肉の策です）</p> <p>・限られた環境の中で教育していかなければならないのは、仕方ないことだと思います。その中で、絶えず改善・改良していくことが最も大切なことだと思います。</p>							